

新規就農をめぐる現状と課題

令和7年8月1日

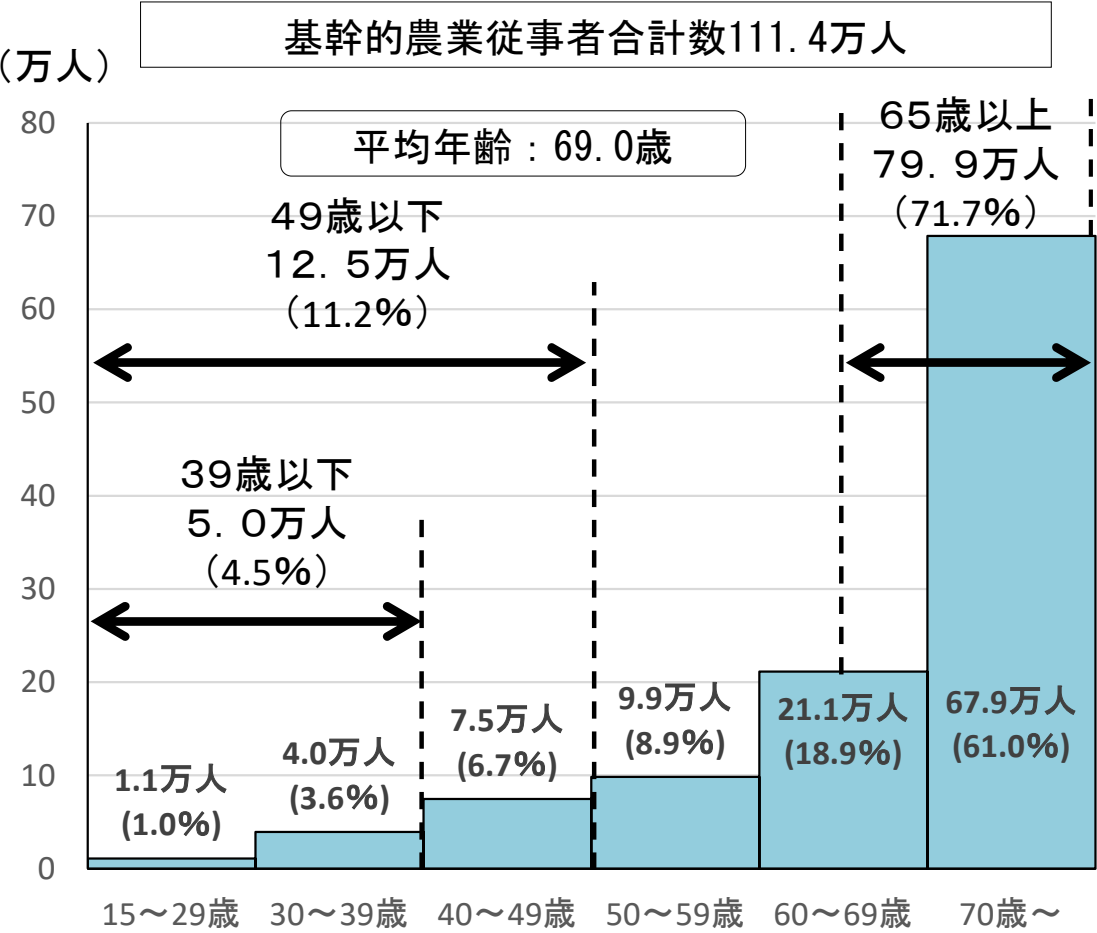
農林水産省

経営局就農・女性課

我が国の基幹的農業従事者の年齢構成及び推移

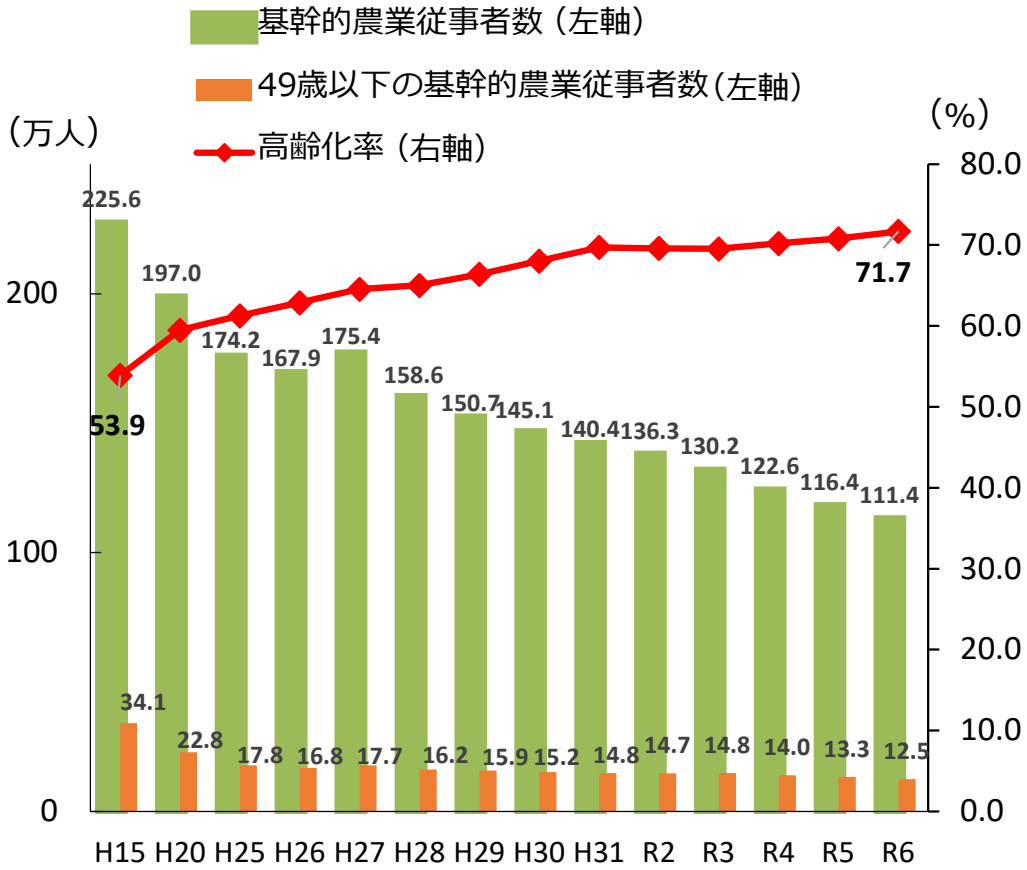
- 現在、我が国の基幹的農業従事者は、65歳以上が71.7%、49歳以下が11.2%（39歳以下は4.5%）と著しくアンバランスな状況。
- 持続可能な力強い農業を実現していくためには、農業の内外からの新規就農を促進し、世代間バランスの取れた農業構造にしていけることが重要。

年齢階層別基幹的農業従事者数（令和6年2月1日現在）



資料：農林水産省「令和6年農業構造動態調査（令和6年2月1日現在）」
注：基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者
注：平均年齢：農業経営体（個人経営体、団体経営体）における経営主の平均年齢

基幹的農業従事者数の推移

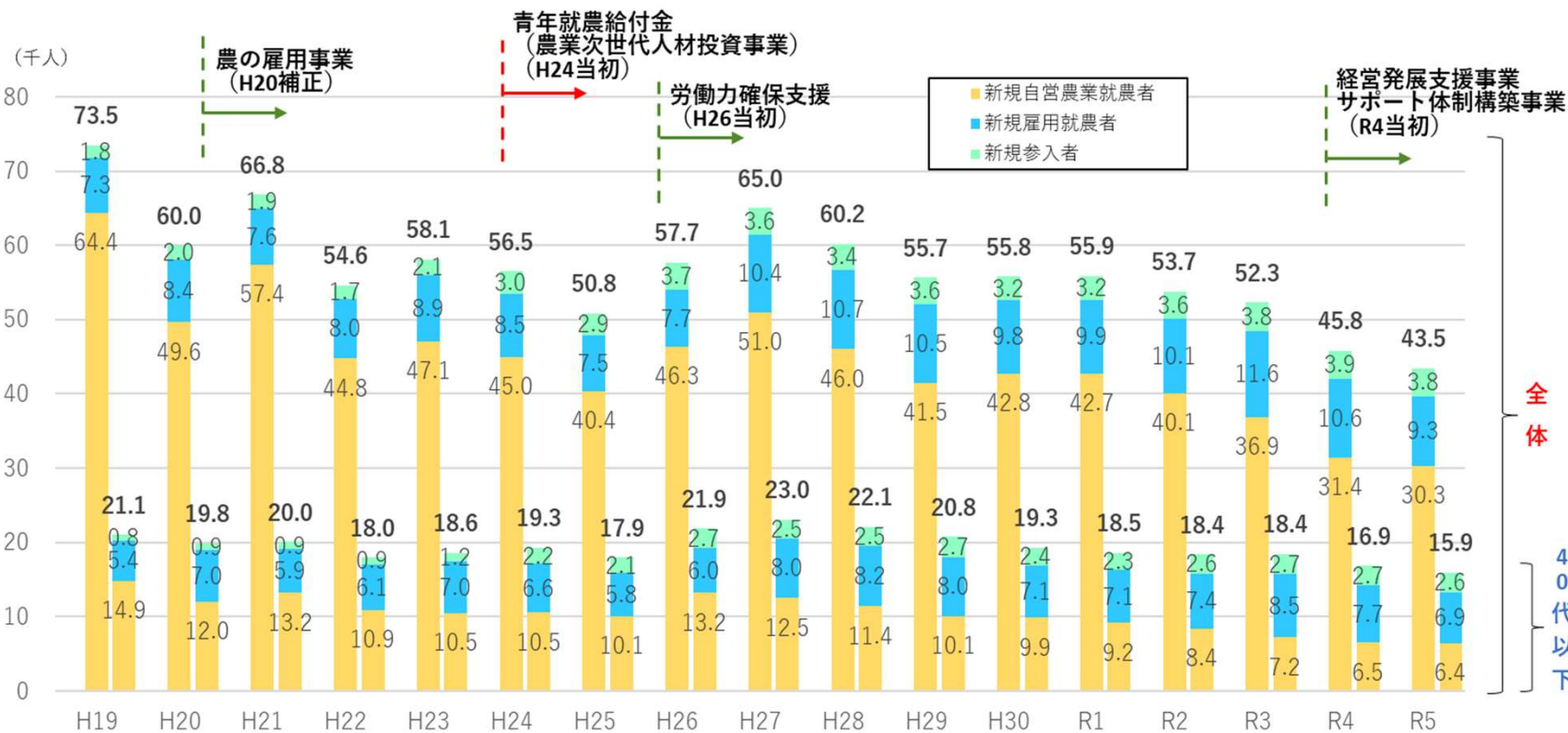


資料：「農業構造動態調査」、「農林業センサス」
注1：基幹的農業従事者：15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。
注2：高齢化率とは、総数に占める65歳以上の割合。
注3：平成31年以前は「販売農家」、令和2年以降は「個人経営体」をベースとして集計。

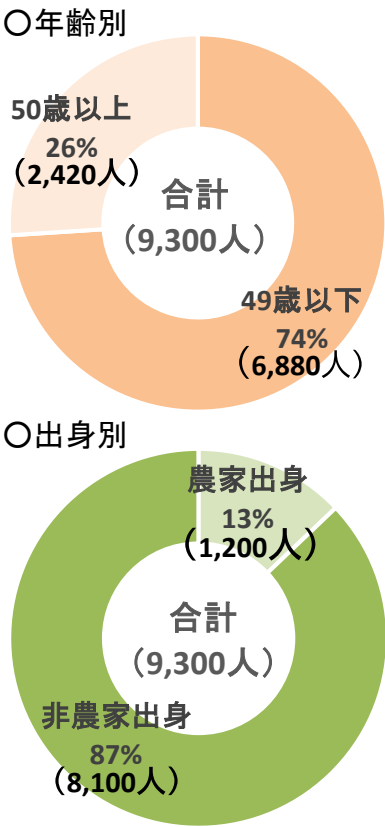
新規就農者の現状①

- 新規就農者数は、令和 5 年（2023年）で 4 万3,460人。
そのうち70%が新規自営農業就農者（農家子弟であって、自営農業に就農する者）。
- 新規雇用就農者（農業法人等に雇われる形で就農する者）は、平成27年（2015年）以降は1 万人前後で推移。
年齢別では40代以下が74%、出身別では非農家出身者が87%と多数を占める（令和 5 年）。
- 将来の担い手として期待される40代以下の若い就農者は、近年は1 万6～8 千人前後で推移。

新規就農者の動向



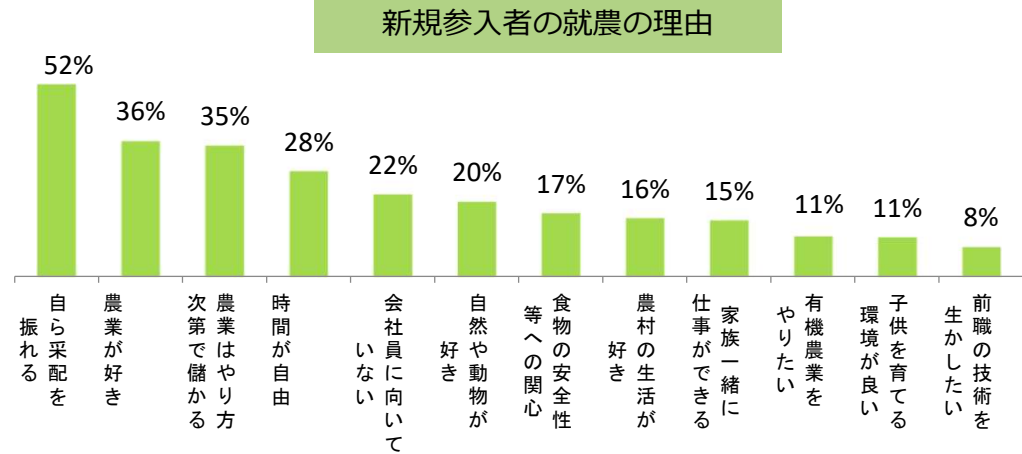
新規雇用就農者の属性(2023年)



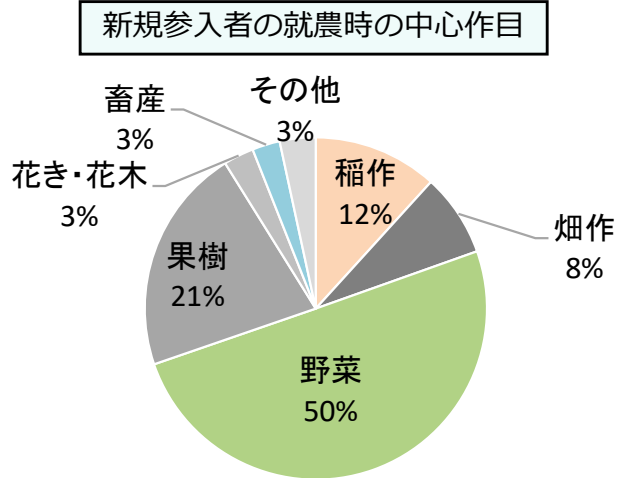
出典（左図の左軸、右図）：農林水産省「新規就農者調査」
（平成19年～26年の数値は、当該年の4月1日～翌年の3月31日まで、平成27年以降の数値は、当該年の2月1日～翌年の1月31日までの1年間に新規就農した者の数）
※1 新規雇用就農者：新たに法人等に常雇い（年間7ヵ月以上）として雇用されることにより、農業に従事することとなった者（外国人技能実習生及び特定技能外国人並びに雇用される直前の就業状態が農業従事者であった場合を除く）
※2 新規参加者：土地や資金を独自に調達し、新たに農業経営を開始した経営の責任者及び共同経営者（相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く）
※3 新規自営農業就農者：個人経営体の世帯員で、生活の主な状態が、「学生」から「自営農業への従事が主」になった者及び「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者

新規就農者の現状②

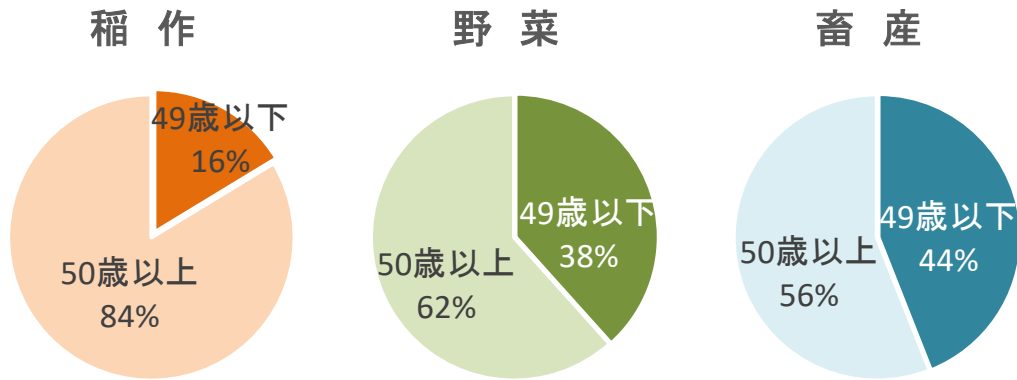
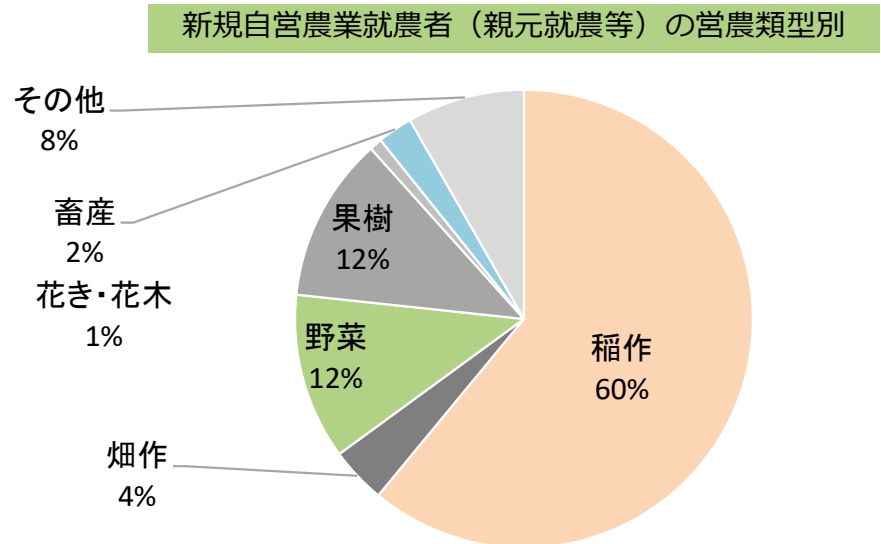
- 就農から概ね10年以内の非農家出身の新規参入者を対象にした調査では、
 - ・ 就農の理由は、「自ら采配を振れる」といったビジネスとしての魅力を感じている者が約半数。
 - 「農業が好き」、「自然や動物が好き」、「農村の生活が好き」など農的な生き方に魅力を感じている者も多い。
 - ・ 就農時の作目は、野菜、果樹など園芸作物が約7割。稲作・畑作は約2割。
- 新規自営農業就農者の営農類型は、稲作が約6割。営農類型ごとの年代は、稲作では50歳以上が8割を占めるが、園芸や畜産では青壮年が約4割。



資料：新規就農者の就農実態に関する調査結果
(令和4年3月全国新規就農相談センター)
調査対象：就農してから概ね10年以内の非農家出身の新規就農者



資料：農林水産省「令和5年新規就農者調査」
注）四捨五入により計と内訳が一致しないものがある。

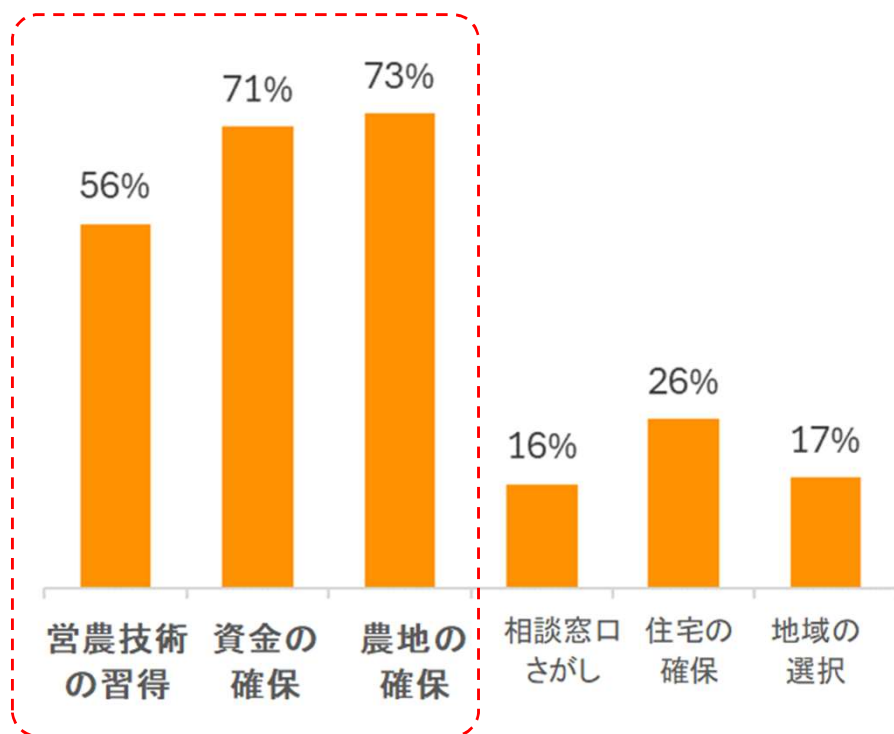


資料：農林水産省大臣官房統計部「2020年農林業センサス」を用いた「令和5年新規就農者調査」の組替集計
注）四捨五入により計と内訳が一致しないものがある。

新規就農者の課題

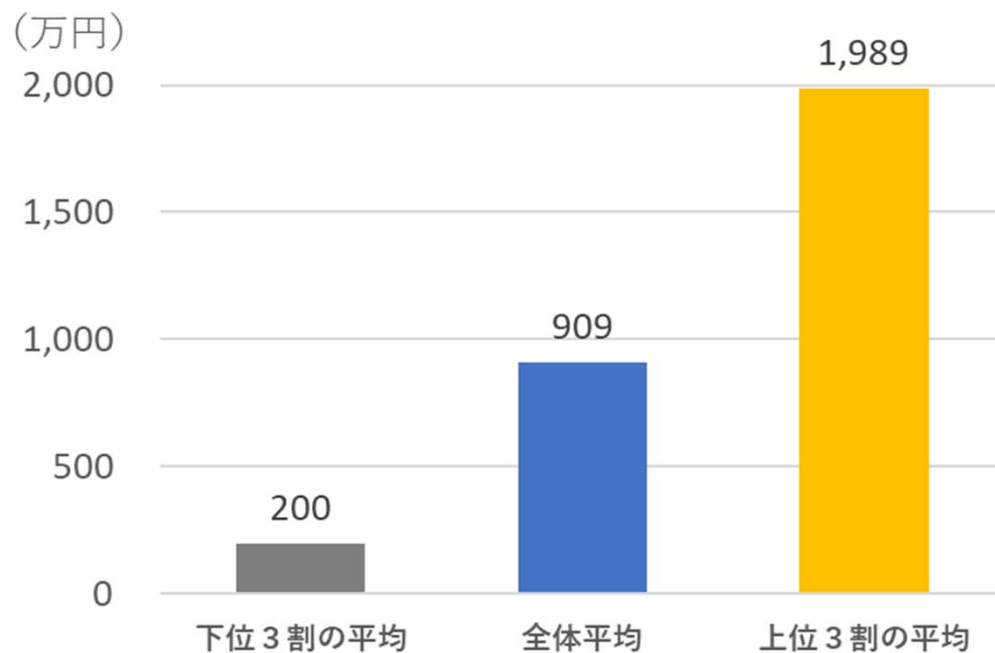
- 新規就農にあたっては、技術習得、資金・農地の確保等が課題。
- 経営開始6年目において、上位3割は収入（売上）が約1,900万円となる一方、下位3割は約190万円となっており、着実な経営発展が課題。

新規参入者の経営開始時の課題



出典：全国新規就農相談センター「新規就農者の就農実態に関する調査結果」
(令和7年3月)

新規就農者（※）の経営開始6年目の収入



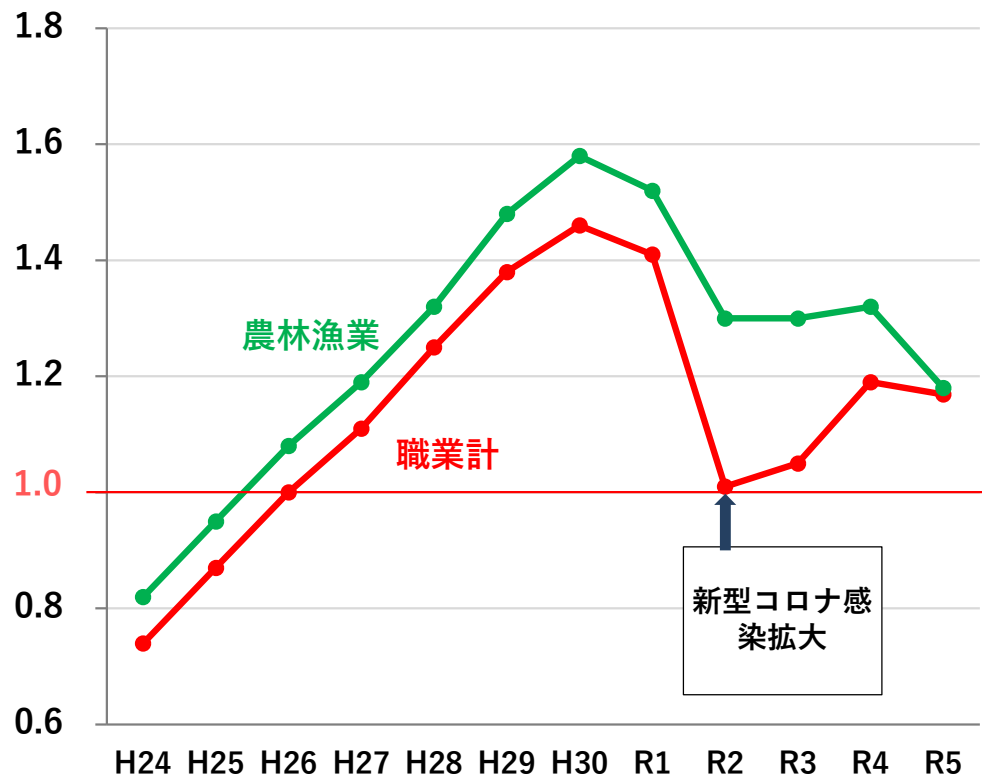
※ 青年就農給付金受給者（平成24年度～平成30年度）

出典：経営局就農・女性課調べ

農業における労働力のニーズ

- 農林漁業の有効求人倍率は職業計よりも高い水準で推移（平成26年以降1.0を超過）し、人手不足の状況が続いている。
- 農業就業者における雇用者数及び雇用者の占める割合は増加傾向にあり、労働力のニーズが拡大。

農林漁業の有効求人倍率



資料：厚生労働省「一般職業紹介状況」

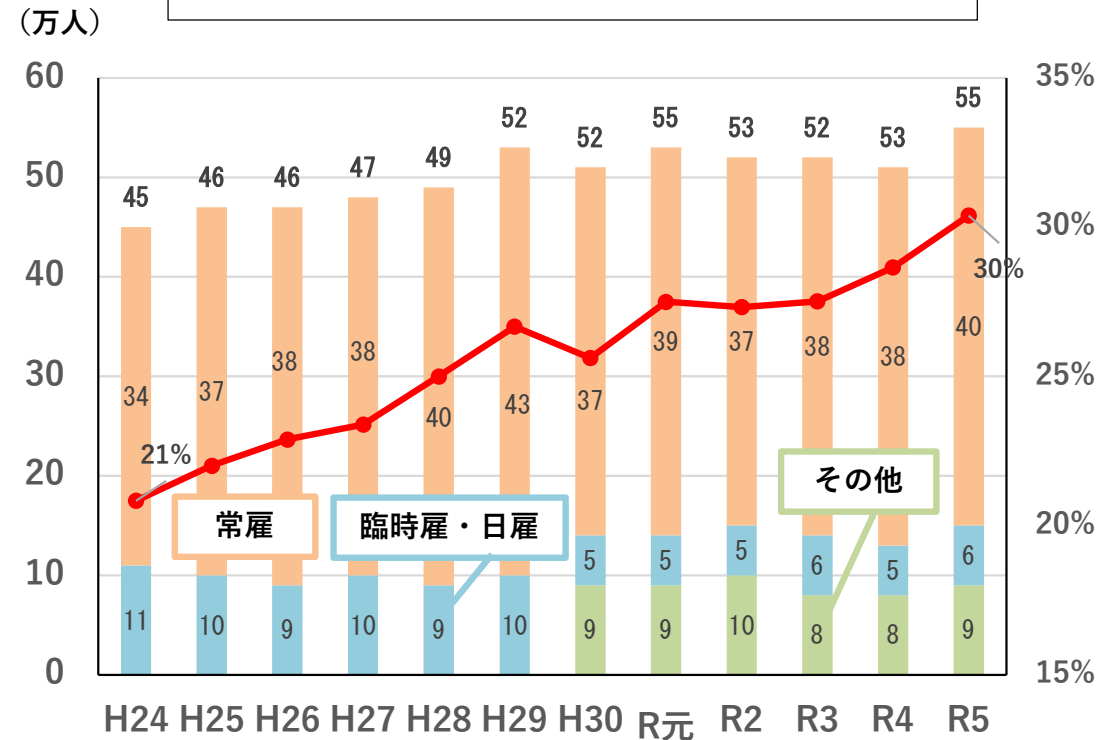
※ 有効求人倍率（有効求人数／有効求職者数）は、パートタイム含む常用の値。

※ 有効求人数は、求人票の有効期限内で未充足の求人数（新規求人数を含む）をいう。

※ 有効求職者は、求職票の有効期限内で就職未決定の求職者（新規求職申込件数を含む）をいう。

※ 職業計について、R4以前は平成23年改定「厚生労働省職業分類」に基づく区分、R5は平成21年12月改定「日本標準職業分類」に基づく区分で集計。

農業就業者における雇用者数・雇用者の占める割合



資料：総務省「労働力調査」

1) 常雇：役員と一般常雇（1年を超える又は雇用期間を定めない契約で雇われている者で「役員」以外の者）

2) 臨時雇：1か月以上1年以内の期間を定めて雇われている者

3) 日雇：日々又は1か月未満の契約で雇われている者

注1：H30以降は、調査事項の変更があったことから、雇用契約期間に基づき、定めがない者及び1年超の者を「常雇」、1年以下の者を「臨時雇・日雇」、期間がわからない者及び定めがあるかわからない者を「その他」としている。

注2：農業就業者は、上記1)～3)に自営業主（個人経営の事業を営んでいる者）及び家族従業者（自営業主の家族で、その自営業主の営む事業に無給で従事している者）を合わせたもの。

注3：四捨五入の関係で、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

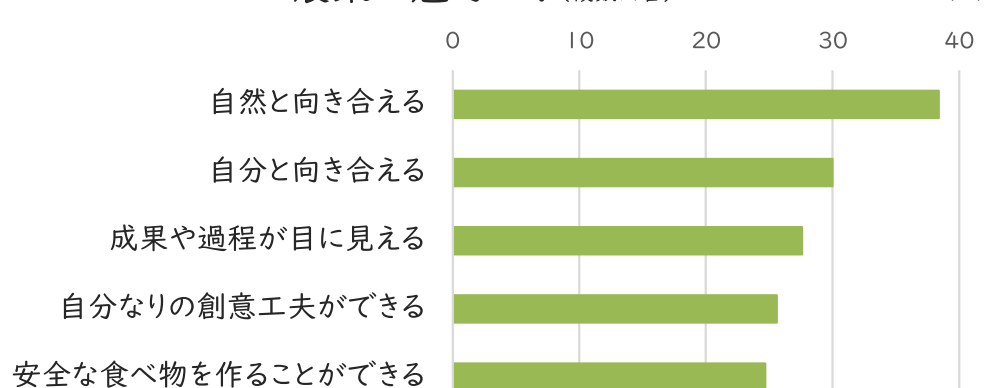
20代の2人に1人が就農を検討！



JA共済連が行った調査では、

- 20代の52.1%が「**将来、農業をやってみたい**」
- 将来農業をやりたい20代の56%が「就農に備えて準備を始めている」と回答。

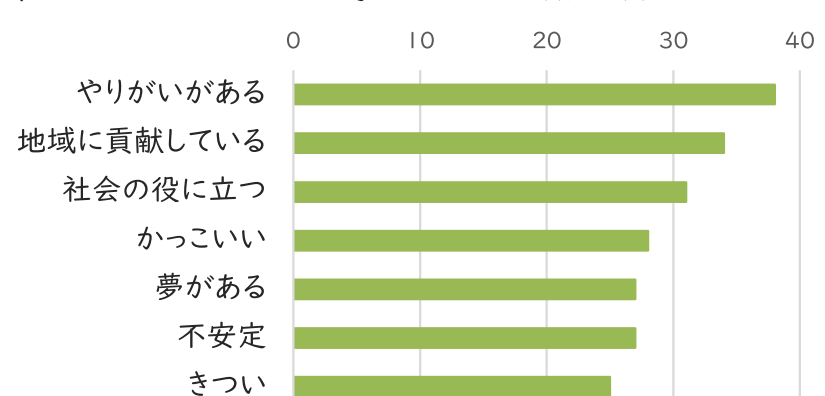
農業の魅力は？（複数回答）



JA共済連「農業に関する意識と実態調査」

将来、農業をやってみたい20代が考える農業の魅力は、
「**自然と向き合える**」「**自分と向き合える**」「**成果や過程が目に見える**」
が上位に。

農業についてどのように考えますか？（複数回答）



JA共済連「農業に関する意識と実態調査」

農業に5年以上従事している者（100人）への調査では、
「**やりがいがある**」「**社会の役に立つ**」「**夢がある**」（3Y）が上位に。

新規就農施策の全体像

「農業」
の発見



就農
検討



就農
準備



就農
開始



経営
発展



農業の魅力発信支援事業

職業としての農業の魅力発信の取組を支援

農業人材確保推進事業

新規就農相談・情報発信、就農相談会の開催等を支援

独立自営就農者への支援

就農準備資金

研修期間中、**年間最大150万円**を交付（最長2年間）

経営開始資金

新たに経営を開始する者に対して
年間最大150万円を交付
（最長3年間）

経営発展支援事業 等

新規就農者の**機械・施設等の導入**を支援（国の補助上限500万円）

世代交代円滑化タイプ

機械・施設等の導入に加え、**修繕・移設・撤去や、経営移譲**に向けた取組を支援（国の補助上限600万円）

青年等就農資金

無利子資金により、機械・施設等の取得、営農資金を支援



雇用就農の促進
（農業法人等への支援）

雇用就農資金

- ・正規雇用に向けた**トライアル雇用就農**の実施のための**マッチング経費等**を支援
- ・就農希望者を新たに**正規雇用**する農業法人等に対して、**年間最大60万円**を交付（最長4年間）

雇用体制強化事業

- ・就労条件改善による従業員の働きやすさを高める取組を支援
- ・他産地・他産業との連携等による**労働力確保**の取組を支援

受入体制支援

農地の受け手確保に向けた 新規就農者 誘致環境整備事業

地域計画の策定により
明らかになる
受け手のいない農地に
新規就農者を誘致するための
・体制整備
・研修農場の整備
・就農前後の方に対する
トータルサポート活動
・農地の整備等
を一体的に支援

教育支援

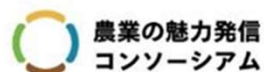
農業教育 高度化事業 等

農業大学校や農業高校等
における
農業教育の高度化・充実
に必要な
・カリキュラム強化
・研修用機械・設備の導入
・施設の整備
・ICT環境の整備
・現場実習や出前授業
・現役農業者に対する
リ・スキリング
等を支援

農業の魅力発信

- 現場で活躍する農業者との接点を通じ、大学農学部の子学生等の農業関心層が「職業としての農業の魅力」を知る機会を創るために、民間企業が結成した「農業の魅力発信コンソーシアム」が行う講義等の取組を支援。

農業を、憧れの職業に。



私たち「農業の魅力発信コンソーシアム」は、農林水産省の補助事業を活用して全国の素敵な農業者たちと一緒に「職業としての農業の魅力」を発信します。



おてつたび

マイナビ 学生の窓口
大学生に、いまと未来のきかけを

マイナビ 農業



※ 令和5年度補正予算の実施主体について記載。

コンソーシアムの主な活動

- ①若者等にとって憧れや目標となる「ロールモデル農業者」をリストアップ
- ②若者等が「職業としての農業の魅力」を知る機会となるSNS等による情報発信
- ③「ロールモデル農業者」による講義等の実施

活動の詳細については、
公式サイトにて情報発信。



農業の魅力発信コンソーシアム
公式WEBサイト



ロールモデル農業者の紹介



竹本 彰吾

たけもと農場
(石川県能美市)

生産品目：コシヒカリ、ミルキークイーン、ひとめぼれ、国産スペイン米等



林 孝憲

フィールドマスター合同会社
(熊本県八代市)

生産品目：牛用の稲発酵粗飼料、牧草「イタリアングラス」、ブロッコリー等



前田 彩花

Strawberry House 彩
(鹿児島県鹿屋市)

生産品目：完熟イチゴ「さがほのか」「恋みのり」



中野 聡

田力本願
(愛媛県西予市)

生産品目：米（コシヒカリ、松山三井、ミルキークイーン、にこまる、ひめの凜）等



高橋 佳奈

みのり農園
(滋賀県高島市安曇川町)

生産品目：野菜（白いうもろこし、自然薯、ニンジン、レタス、ハーブ類等 200種類



村田 翔一

ロックファーム京都
(京都府久世郡久御山町)

生産品目：野菜（九条ねぎ、白とうもろこし、イチゴ、レモン、枝豆）

農業の魅力発信コンソーシアム
公式アカウント



その他、総勢140名の
ロールモデル農業者を中心に情報発信。

就農情報ポータルサイト「農業をはじめる.JP」

農業に興味を持たれた方や、これから農業を始めたい方が、農業を知り、就農に向けて具体的な行動を起こしていくために必要となる情報を一元的に閲覧できる就農情報のポータルサイトを開設。

※ 農林水産省補助事業（農業人材確保推進事業）として、全国新規就農相談センターが運営。



<https://www.be-farmer.jp/>

就農に向けた段階に応じて必要となる情報を網羅

就農を知る

- ・ 農業って、どんな仕事？
- ・ 就農適性診断
- ・ 先輩農業者の就農ストーリー
- ・ 支援が充実している地域の紹介

体験する

- ・ 農泊
- ・ 自治体や民間企業等の農業体験情報

相談する

- ・ 全国新規就農相談センター
- ・ 各都道府県にある就農相談窓口の紹介（ＪＡ・都道府県）
- ・ 自治体等が開催する就農相談会情報

研修・学ぶ

- ・ 農業が学べる教育研修機関（農大、農業専門学校等）
- ・ 自治体やＪＡ等の研修情報
- ・ 民間企業等が開催する農業研修情報

求人情報

- ・ 新規就農相談センター求人ＤＢ
- ・ ハローワークインターネットサービス
- ・ ＪＡや民間企業等の農業求人サイト

支援情報

- ・ 都道府県・市町村の就農支援DB
- ・ ＪＡグループの新規就農支援
- ・ 農地・空き家を探す
- ・ 移住支援（「いいかも地方暮らし」等）

農林水産省だけでなく、関係省庁や自治体、ＪＡグループ等が行っている支援やサービスも並列に紹介するとともに、自治体やＪＡ、民間企業等が実施する農業体験や就農相談会等に関する情報をニュースとして掲載。

農業を始めたい方への支援施策

- 全国及び各都道府県の就農相談窓口や、情報サイトにおいて、就農情報の提供や就農相談を実施するとともに、新規就農相談会を開催し、就農希望者の就業を支援。就農相談等の実施に当たってはハローワークとも連携。
- 大学生、社会人等を対象とした、農業法人や農場での就業体験を支援。

就農相談活動

全国及び各都道府県に設置する「新規就農相談センター」や、就農情報サイト「農業をはじめの.JP」等において情報提供、就農相談を実施。



【お問い合わせ先】

全国新規就農相談センター（一般社団法人全国農業会議所）
TEL：03-6910-1133
URL：<https://www.be-farmer.jp>

就農相談会（新・農業人フェア）

新規就農ガイダンス、就農体験紹介、農業法人等の会社説明、自治体の就農支援情報の提供等を実施。



【開催予定日】

- ・ 8月2日（土） @歌舞伎座タワー
- ・ 9月15日（月祝） @国際フォーラム
- ・ 11月9日（日） @グランキューブ大阪
- ・ 11月23日（日） @ビッグサイト
- ・ 2月11日（水祝） @交通会館

URL：<https://agri.mynavi.jp/shin-nogyojin/>

移住・交流情報ガーデン

総務省と連携

ワンストップ移住支援窓口として、地方（農村）への移住・交流についての一般的な相談や問い合わせに対応している。この他、就農情報について、専門の相談員が対応。



【開館時間】

（平日）11:00-21:00

（土日祝）11:00-18:00

休館日：月曜（月曜が祝日の場合は火曜日）

年末年始（12/29～1/3）

✓ 全国から200以上の農業団体が出展

日本全国から、地方公共団体、農業法人等の農業団体が一堂に会し、各団体の就農支援情報を発信。



✓ セミナーにて現役農業者のリアルな声を発信

現役農業者から新しく農業をはじめた若手農業者まで、多種多様な取組をされている者から、農業に関する魅力的なセミナーを実施。

